



風俗文選 三

俗文選  
讀賦說

文  
167  
三

5  
688  
3



正德

*[Faint bleed-through text from the reverse side, including characters like '正德', '年', '月', '日']*

*[Faint bleed-through text from the reverse side, including characters like '正德', '年', '月', '日']*

利門  
688  
巻 3

東京大学  
文学部  
蔵書  
印

風俗文選巻之四

分類

陽相田  
みどり  
みどり  
みどり

菘虫説

明治二十六年十一月五日  
坪内権蔵氏等贈

五老井 許六選

素堂

菘虫のまほひりなまをあるは物ちりりしと  
かくい者いけりるをれいんにけりく鬼の子なりしん  
清女がひまひさうねとやう鬼なりりとも替受をて  
て衆あつしぬきむしり衆たうらん  
この法（）を乃おほひけりてかけを能あるとあるは  
ぬ。松まを乃乃美なるおよ。菘虫は花野をなふ。菘  
子と縁を吐し。からりして賤の子よ死す。  
列のびし。菘虫をて解なるをあるは。胡蝶を

菘虫説

素堂

柴賣説

九北

閉關説

芭蕉

師説

許六

名阿段説

許六

出女説

木導

雑説

不知作者

愛縁説

万子

卍字藤説

朱廸

草芥説

露川

山芋説

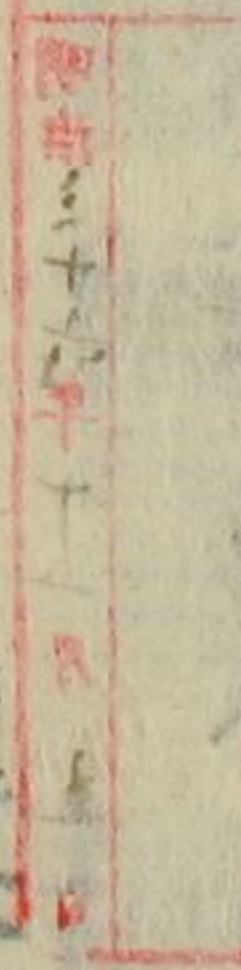
吉神

嘲霄惑説

毛神



花よひそし。蜂と蜜をいしなむ。いづれはまのむら。  
 かゝるを流るる。いづれをあらう。いづれを。  
 この世し。かゝるる。いづれを。いづれに。いづれを。  
 まい。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 か神。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 そこ。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 劉表。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 を。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 ひ。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 一。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 みの。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。



から神。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 しく。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 も。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 劉表。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 て。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 感。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。  
 骸。いづれを。いづれを。いづれを。いづれを。

又以男文字述古風

- 簑主ニ 洛入ニ 摠中ニ 一絲欲絶
- 寸心共空ニ 似寄居狀ニ 無蜘蛛工
- 白露其口ニ 青苔粧野ニ 從容侵雨

飄然乘風

栖鴉莫啄

家童禁叢

天許作隱

我憐林翁

脫簑衣

誰識其終

...

柴賣説

凡兆

(此は賣柴まゝの序。小野細い。葉は隆とあれ。土音  
 小原の死を梅の細くわらわら。深山業をたかき  
 折之くといつる。まめあまのまをな。んかの秦  
 の毛女が愛し。河陽の焦子が仁もあ。唯世  
 子乃よびがめ。女をたかく。二袴を賣。史を山入  
 く。二袴を推。既くは小野せ。と思く。そを泥と深

思とも白。さげ。建礼門院乃女房。阿波乃典侍の厨  
 下。いよ人の名跡ある。や。あはさひ。く。香ある。二  
 袴とはく。二布をあ。く。白き。はひ  
 志海まは。白き。はひ。ま。く。はひ。はひ  
 むすび。幾男の。はひ。ま。く。はひ。はひ  
 業もた。虎杖を。ま。く。はひ。はひ  
 ち。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ  
 或ら。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ  
 志海。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ。はひ





道の終りしころまゝに——なり先世佛た乃師たる人を  
 へらる。大政は門を——指し。種教を布て貴賤をあらわし。利  
 益を説いて富をたすも。その弟子とかなる者こそん教——  
 流ミナはかりて世に事あるも。かゝる人もあらず。かゝる世に河——乃  
 淵流はひりりく。水と養田をうら果てら。ゆりやふ  
 人。又とあはれの子た。り輪者乃り。兼父母は老つて  
 して。是は養ふるも。かゝる利あり。まゝはは師が  
 つらとを授てら。そらち見はかゝる流——あるや。かゝるも  
 志——し。将カこよ。何某寺に新築と。かゝる  
 かりま。かゝる世も。かゝる師。かゝる世を海る  
 只すま。かゝる世。平醫樂師。百工乃師をたむ。かゝる世。

かゝる馬止の法。法種。種は。讀其る。種乃解する人  
 此中。のせぬ。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 人。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 教。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 たる。二。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 も。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 茶を傳ヒ。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 して。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。  
 り。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。かゝる世。





おくてもいへばよいし。

名阿段説

許六

○氏名のよきとあつて、文字の得を第一とす。社  
名新くも極といふは、通字ありて己乃己  
ともいふし、まじくは、なまじくは、まじくは、  
名同のよき世なり。一はもあつて、まじくは、  
まじくは、まじくは、まじくは、まじくは、  
ありて、まじくは、まじくは、まじくは、  
天竺のまじくは、まじくは、まじくは、  
まじくは、まじくは、まじくは、まじくは、

乃く、まじくは、まじくは、まじくは、  
鉄巖とほめて、まじくは、まじくは、  
名同ありて、まじくは、まじくは、  
歌を教へて、まじくは、まじくは、  
定む。まじくは、まじくは、まじくは、  
端の類も、まじくは、まじくは、  
まじくは、まじくは、まじくは、  
まじくは、まじくは、まじくは、  
まじくは、まじくは、まじくは、

大巻三

出女説

木道

傾城傾城。唐人乃一帯を以て名として。白松はるが  
 終乃其女。亦即乃ヤリ。名を以て。首より銀鬚を  
 す。いかにいよ。由なるらん。必しく乃名肉。當世の西流  
 柄。千。執。白人中。美乃を以て。大ひき。一種のわらわ。  
 位階のこ。下。今銀のお。當なるべ。と。い。か。も  
 一。執。諸よ。ゆる。執。吾人のか。い。い。は。は。ゆ  
 和。少。子。細。こ。て。お。ほ。く。い。あ。る。こ。お。あ。ま。わ。な。ま。道。人  
 ぐ。ま。子。逆。君。あ。て。終。人。乃。魂。と。ま。る。ん。こ。い。ま。の。法  
 たら。い。い。よ。して。一。い。む。程。の。ま。ま。も。た。り。ま。も。お。か。い。

酒乃て。を。能。進。匠。の。や。ま。り。り。の。つ。と。よ。和。光。同。塵。乃  
 宗。を。あ。り。り。一。葉。吐。中。一。の。お。女。ふ。い。た。あ。ま。わ。信。半  
 流。の。あ。も。さ。ま。と。る。ふ。地。を。こ。い。は。旅。あ。乃。音。と。ま。  
 さ。い。た。甘。み。の。花。の。ま。り。い。も。あ。ま。て。江。湖。の。脚。乃。和  
 情。を。と。あ。ま。い。い。い。あ。る。い。船。立。り。旅。人。と。送。り。打。差  
 姿。と。あ。ま。持。く。い。帯。と。飛。一。部。中。の。あ。ま。い。ひ  
 きて。い。や。や。ぐ。衣。け。り。づ。み。再。案。の。あ。ま。い。め。時。を。腰。の  
 疾。勁。を。相。撞。し。む。り。め。ま。ま。是。折。の。逢。解。よ。す。り。あ。ま。  
 通。つ。り。て。士。よ。ま。ま。を。か。い。や。う。く。を。乃。目。も。い。れ。執  
 や。ま。の。い。やく。い。見。せ。乃。い。海。よ。産。と。ま。め。泊。り。地。り。ん。え  
 む。肌。ぬ。ま。り。大。き。い。首。飾。の。あ。ま。り。り。燕。は。舞。あ。ま



と定め。給分の加増は未だおぼえをこぎぬ。おぼえ終つてあま  
 心。古述もおぼえはたむをて。けしきの、行来何よりなるん。  
 有ハ普賢は、例もなむと。先例もあまじ。今  
 々すう。此邊ひありて。果ハ怒龍身ノ毒よこ。わ  
 瘦子あまじ。老若同猶乃るよ。饑く。生瀝と終る。  
 未ま本とども。先案なり。縛屋の地獄まで。いあまじと。  
 お女乃地獄の沙汰とまきん。そと。ハ方地獄の門く。  
 とも。又あつたなり。おべー。

雑説

不知作者

(一)人物會歎。い。く。人物會歎の粉由なり。あ。り。信。意。  
 山川草木。い。く。山川草木のもの。い。く。終る。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 物皆をい。く。あ。り。い。の。終る。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 たる。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 仁義。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 例。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 火。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 ら。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 る。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 々。痒。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。  
 盜賊の強。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。あ。ま。じ。

中いささか... 著るもの...  
師人おほよかりあり。ありは... 傷き。家後々...  
あつれ。先師... 傷き。さう... 被て... 流を...  
終る。その... あり... 中... あり...  
或乃松竹... 身の... 被き... 被て... 微細の...  
さう... 平... 中... 流... 中... 流...  
流の... あり... あり... あり...  
乃用... 然... 其... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり...  
流... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり...

梅... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...

愛梅説

全篇説梅而無梅字  
終句以二梅字結之

○所原楚辭... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...  
あり... あり... あり... あり... あり...

ハ。諸君様横斜をうははせ。心所の物見れば、おんきり  
おきこる。おしり炬乃白い髪。こらおれた。谷の藤の  
ふす片茂る。竹乃片枯葉をかいらるふ。神をたこらふ。  
丁月は白く天氣酔管さ。福て。酒家乃樹とお  
そのた、筆をさる。紙の言乃中。おねき方乃後  
と白いと。じ。遍照が折舞智右の氣。おぼせ。十客  
盤乃粒春。藤乃汗。こま。内湯内膳の  
おのの細な。彼説も。牡丹と花の  
か。おたわ。菊をむら。隠影なるおたわ。是の  
うらふ。わ。をむする。人。蓮らむ。子  
む。おたわ。も。に。おたわ。家。に。記。お

とて。と。梅。花。乃。内。膳。と。ぬ。じ。と。お。也。か。ハ。を。内。膳。と。  
ぬ。じ。と。お。を。ぬ。じ。と。お。た。わ。

州字藤説

丘光井 四絶之一

程己

ひ若別、宿る。夜と。大和路也。實と。か。ハ。を。内。膳。乃。  
か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。  
内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。  
ひ。若。梅。乃。傍。よ。本。神。で。怒。て。芥。と。は。ま。づ。け。ひ。も  
な。い。飯。の。性。酒。を。この。し。山。王。寺。へ。餅。を。多。く。ひ。て  
何。の。由。あり。て。か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。か。ハ。を。内。膳。乃。





はく縁と呼んで。多功もて。其味も次也。秦楚よ  
 ら玉延といひ。鄭越よ。土籍と号す。社務蒙中。の注を  
 こころえん。陳同。亦ハ。其延の賦化す。徳山の藁有。頼ハ。二  
 目放。さきじ色と愛せむ。家ハ。うつぐの事ハ。系を引  
 り。藕乃。ハ。四月。は。葉をまじ。初。た。こ。子。を。結。ぶ。  
 ぬ。う。こ。よ。り。秋。ハ。在。禪。豆。ハ。入。り。秋。ハ。も。づ。子。ら。ん。ふ。程  
 と。み。く。教。園。ハ。領。す。そ。其。秋。の。麻。酒。ハ。海。眉。山。の  
 羊。と。す。わ。込。中。月。の。表。版。ハ。ま。り。ま。れ。宿。乃。と。り。を  
 う。や。む。世。ハ。背。茶。と。り。て。や。さ。る。秋。ハ。も。書。信。の。為。ま  
 が。ま。り。一。つ。次。ハ。人。考。よ。く。人。を。活。し。よ。く。人。を。殺。と。類  
 々。秋。ハ。と。し。接。相。ハ。夕。休。を。極。ま。せ。く。そ。を。驚。か。し。と。り  
 々。ま。り。と。り。と。り。と。り。と。り。

嘲曹志説

毛純

（存乃。其の。あ。つ。秋。を。志。う。ぬ。人。ハ。入。説。と。こ。の。も。志。曹。虎。ハ  
 ま。り。人。ハ。産。孫。の。出。と。す。く。凡。雅。の。う。け。ハ。一。ハ。ま。り。お  
 遠。い。な。り。か。の。人。生。は。打。と。え。ん。眠。堂。ハ。か。き。こ。り。の。麻  
 酒。ハ。を。樂。乃。と。え。ん。と。す。く。麻。酒。ハ。さ。め。着。あ。ま。く。ひ。ん  
 之。れ。秋。ハ。さ。き。じ。色。と。愛。せ。む。夜。の。ぬ。る。や。り。ハ。ま。り。な。く。尾。音。後。の  
 狗。聲。毎。月。も。仕。あ。ま。大。玉。を。領。す。活。め。む。と。お。り。ハ。言。下。ハ  
 活。つ。と。又。々。令。持。の。活。人。と。な。り。て。ハ。漢。海。の。奥。方。ハ。川。こ。こ  
 本。藪。頭。陀。よ。ん。を。愛。し。て。ハ。松。崎。象。河。ハ。方。と。ん。

これと縁よ出る色よんを頼り。秋生秋よすらゆき心  
心比せし神てやぐん興も重ぬ。きほ（海軍の神あり  
て。青い海とぬおとねどこれ。大気も息合をとりり。田樂  
の縁を結り。花人の花伽よあついで。家凡は徳も頼を  
信もかゝる人きこのぬといふ事とあらう。花も髪也。花  
凡の指輪とおほ。花も凡月いふ事よ。さういふらわさ  
家神のるを海も。秋よはあてし縁つらん。古人の徳  
とさゆといふ。深よゆあわ。人生七十今世いさ。多  
ら平て死せらりとも。百子の美月よ。さういへ。さあゆ  
花も。花もよはうさう神と。夜も情も。細よ。さうい  
やんこ。さういふことおほくさね。

# 花伽

獲麟解 スウ  
リンノカイノ  
チ

許六 長雪隱解

許六

數醫者解 ヤフ  
井  
モヤノ

文村

獲麟解

○解類

獲麟解

五老并許六選

許六

魯乃哀公十四年。西へ、括と麟をほそり、孔子大きに  
かげきかいて、春秋をまじひ。史麟といつもの時、孔子  
とんんそくしのみぞりて、麟ハ思ひて大義のま  
とさけて、命をまじひ、麟ハ四靈乃随して、括ある  
をさするも、括とんかまとも又のづり、孔子をけり  
利よりがわ、孔子や牛馬の生れそ、けりて、やあ  
まじひ、括も又のづり、麟ハ史、道おこつ、括とんか  
ま、道と麟とのとありて、括とんの上へ、括とんかま  
ま、括とんかま

又いづ一。藤原のよき。聖人も其よしをよ例てても  
 あらや。あといふ人うせのよ例ありとも。道はちかき  
 所なり。是れもかみくよるも。儒道とてわくしと  
 おりよこれハ。麒麟とてす一。よといはし。わと人とあむ  
 べく。美ん物もき。教と教を。機の歯はき。子と別と  
 白と。聖家ののよれハ。ぬく世り。り。著おる。毎  
 教もい。神も。機。本原は。いふ。よと。かふ。よても  
 かり。さ神バ仁義乃と。占。ら。あ。ぬ。あり。も。あり。ぬ。べし  
 藤とす。ぬ。原。人も。あり。や。又。聖。人。を。ぬ。藤。原。も。あり  
 や。び。一。二。か。み。希。も。い。は。れ。孔子。お。せ。き。ん。を。い。し。  
 ね。か。も。神。代。り。り。ち。つ。で。よ。南。内。百。子。校。と。い。し。よ。わ。聖

物なり。藤原をき。取。出。は。も。なり。大。わ。れ。江。や。ち。わ  
 勢。ハ。時。を。勢。も。藤。中。く。人。も。か。と。き。次。風。時。て。旅。家  
 乃。夏。と。破。は。能。なり。か。ぬ。方。の。を。人。い。し。く。自。わ。り。わ  
 ぬ。べし。是。ぬ。能。と。乃。も。し。福。と。徹。也。記。が。あ。や。ま。わ。ら  
 ち。り。か。ぬ。の。よ。と。き。と。き。り。や。世。間。を。人。と。ち。り。次。り。て  
 藤。原。の。の。目。と。つ。を。て。来。乃。見。史。の。不。同。科。ハ。の。一。言。い  
 ち。あ。や。ま。わ。ら。を。人。なり。し。り。の。ま。な。す。べし。今。は。藤。を。解  
 して。い。ふ。よ。と。か。り。茶。と。る。春。遊。の。よ。も。傷。ふ。よ。か。か。や。春  
 乃。乃。む。向。し。て。こ。り。し。ち。あ。ら。ば。何。乃。其。藤。一。り。心。を  
 乃。其。し。せ。

藤原

一七



とは。同(か)ら。おすくぬ(か)し。ま。さ。れ。ば。を。所。と。ま。す。ふ。  
其。業。と。お。ふ。草。津。く。酒。く。よ。く。び。る。し。中。ぶ。こ。ご。ん  
と。ご。病。家。も。信。と。ま。り。茶。力。も。飛。が。づ。と。れ。り。り。物  
換。り。後。り。今。ハ。長。曲。も。を。茶。と。な。り。甚。ら。ま。ハ。毒  
益。と。り。し。苗。附。の。茶。種。を。と。り。ふ。せ。ん。門。に。よ。産。後。の  
響。を。物。を。け。り。作。坊。子。の。茶。は。茶。乃。着。枝。と。り。け。り。  
茶。字。の。味。も。ま。ハ。元。々。と。り。さ。る。ま。さ。り。の。茶。を。れ。と。り。  
茶。店。よ。そ。ま。り。せ。物。中。ハ。後。産。の。内。よ。茶。て。女。房。の。茶  
と。り。じ。町。役。ハ。茶。會。を。療。し。茶。代。よ。め。で。り。河。原。出  
ま。り。ま。り。牛。膝。よ。ハ。牛。乃。膝。を。君。の。鶴。亂。を。鶴。の。志。ら  
み。を。さ。が。と。茶。め。も。茶。子。か。ま。て。胃。の。氣。よ。り。と。え。乱

煮。へ。と。果。ら。何。が。村。乃。及。湯。の。味。を。ま。り。家。佛。塔  
の。名。と。し。て。を。神。と。押。は。の。流。も。い。や。も。と。流。く。と。ま。る。ふ。  
と。り。も。茶。を。ま。り。い。な。り。と。茶。道。や。け。け。り。今。も。中。  
酒。ハ。後。ち。り。ん。乃。茶。の。中。も。お。が。け。り。り。り。  
細。衣。ハ。茶。茶。を。の。せ。り。と。の。拂。子。も。ん。作。り。茶。と。  
佛。法。ハ。茶。茶。の。氣。遣。を。ま。り。な。り。さ。り。へ。り。  
ま。り。茶。茶。乃。中。ぶ。り。り。ふ。又。お。ろ。竹。の。子。も。ま。り。  
り。り。り。り。り。り。り。り。

茶

Large calligraphic characters in seal script, likely reading '己巳' (Ji Si), enclosed in a rectangular border. The characters are thick and bold, with a small square seal impression visible within the right character.

Faint, ghostly impressions of text are visible in the background within the border, including characters like '心', '木', '用', '己', '巳', '年', '月', '日', '時', '刻', '分', '秒'.

Faint, illegible ghostly impressions of text are visible on the right page, appearing as light grey or blue ink bleed-through from the reverse side.

落柿舎記

去来

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風臺水臺記

許六

附紀行

鹿嶋紀行

芭蕉

南行紀

李由 許六

風俗文選卷之五

五老井 許六選

記類

落柿舎記

去来

○落柿舎の物語。家なるものほり小柿の。小田原  
ある。みよせといふ。世に傳へられた。このも持事。あつた。代り  
まごも。さう。の。り。ゆ。風。は。あ。さ。さ。さ。と。い。ふ。主。祥。の。心。も  
と。ち。よ。着。や。も。は。ま。さ。う。秋。ま。天。乃。帝。の。め。ん。と。と  
の。他。さ。し。し。を。あ。ま。い。人。と。ま。さ。い。の。ま。り。ら。わ。  
て。し。の。ま。や。こ。よ。の。ぬ。お。あ。い。や。こ。の。り  
ち。の。ま。り。さ。あ。よ。か。い。ぬ。め。し。し。一。書。入。り。か。



懐びかつりぬ。ハ程そこふと。申せらるるふ。こゝろくと  
屋敷をいへる。ひしとをよつと。やうと。やうと。あ  
もやうに。いへる。高人のん。家ま。くわ。指は。いしと。お孫  
め。あひ。ふ。髪乃。び。わ。白髪。生る。ふ。て。げ。り。と。業。と  
ゆ。き。と。か。く。も。あ。ぬ。る。様。を。い。ひ。さ。の。ふ。代。價。か。し  
ふ。れ。ず。い。て。ひ。や。陰。い。と。使。さ。ま。れ。ぬ。ゆ。り。や。り。ぬ。し。者  
乃。か。つ。り。な。さ。ち。乃。洋。へ。消息。送。る。と。え。い。け。り。も。あ。り。様  
今。の。ま。ま。と。書。ん。て。見。え。り。

柿のやまに水くらうにありしと

幻住菴記

芭蕉翁

右山乃奥。岩洞のうらふ山あり。園が山と云ふ。あ  
こ。園。い。ち。り。名。を。傳。ふ。な。く。べ。し。藤。原。の。細。い。流。を  
流。して。羽。幸。池。の。登。る。事。し。こ。曲。二。百。歩。に。く。八。幡  
宮。の。い。せ。ま。ふ。神。作。の。跡。乃。さ。る。像。と。り。唯。上。の。お  
ま。甚。だ。好。る。ゆ。を。兩。部。光。法。や。い。く。も。利。益。の。聲  
を。聞。し。し。志。ま。ふ。も。又。早。ふ。し。田。以。々。人。乃。指  
さ。り。を。れ。ば。い。し。神。さ。び。物。を。け。り。な。る。像。の。位。位  
し。ま。の。ま。り。あ。る。よ。り。根。柵。斬。り。と。み。な。さ。り。り。わ  
な。り。て。枕。押。ぬ。し。と。法。師。なり。幻。住。菴。と。云。あ。る。し



人とあそぶ。さか。嶽。千丈。山。後。勝。山。山。あ。
 思。ば。の。里。ハ。い。と。く。あ。う。あ。り。て。細。代。と。い。ふ。
 々。む。あ。の。あ。は。集。乃。案。さ。り。く。も。杉。眺。る。く。あ。い。
 び。は。の。ま。よ。遠。の。ほ。を。松。乃。棚。は。け。り。茶。乃。因。存
 を。あ。く。後。の。勝。掛。と。名。づ。き。彼。海。堂。よ。鼻。と。い。ふ。
 ひ。主。乃。子。乃。菴。を。結。つ。る。王。翁。除。佗。後。の。あ。
 唯。勝。山。氏。と。な。り。て。勝。部。よ。之。を。さ。げ。せ。り。
 山。乃。司。を。柄。て。所。も。さ。あ。く。山。乃。先。あ。る。河。ハ。谷。
 清水。と。汲。く。自。炊。く。と。く。乃。常。を。徒。て。一。所。乃
 備。い。と。う。り。と。い。ひ。り。何。く。も。人。の。好。よ。ん。と。く。
 千。乃。ち。ま。さ。く。く。あ。も。る。お。大。見。も。か。り。お。佛。一。

と。傷。夜。の。お。お。さ。む。い。ま。ま。な。ど。い。さ。く。と。う。
 さ。心。を。執。此。茶。乃。う。ら。ん。山。の。僧。正。々。加。茶。の。甲。乃。何。り。
 乃。藏。子。て。ば。い。び。流。よ。の。月。り。い。ま。ぞ。り。あ。る。を。あ。あ。人
 を。い。類。を。い。と。や。と。く。と。茶。子。を。添。て。何。住。菴。乃。
 字。を。送。り。流。於。て。茶。乃。菴。の。祀。念。と。か。り。ぬ。す。ハ。山
 后。と。い。ひ。後。孫。と。い。ひ。さ。る。器。と。く。り。な。る。く。も。な。り。
 茶。乃。梅。是。越。の。香。義。ど。り。松。の。上。に。梅。よ。あ。い。り。
 ま。れ。く。あ。い。ふ。人。と。い。ふ。と。動。し。あ。る。い。さ。な。り。
 里。の。お。の。こ。を。入。ま。り。て。お。の。ま。の。福。々。い。あり。し。
 乃。豆。細。よ。か。り。や。た。と。い。ふ。あ。い。り。ぬ。農。務。目。既。山。の
 乃。お。い。ま。は。夜。産。部。の。月。を。納。て。茶。乃。を。使。ひ。

取て之國<sup>モウ</sup>西<sup>ウシ</sup>は是地とてつた。くつていひていふ  
家寂を好む。山部<sup>ヤマベ</sup>は跡をかくしとよあはは。屋  
痛<sup>イタ</sup>身<sup>ミ</sup>人<sup>ヒト</sup>は倦<sup>ウツ</sup>ぐ世をいひ一人は無<sup>ム</sup>らほらく  
手<sup>テ</sup>月<sup>ツキ</sup>乃<sup>ノ</sup>福<sup>フク</sup>こつ。松<sup>マツ</sup>乃<sup>ノ</sup>の神<sup>カミ</sup>をおりよ。あつては  
有<sup>ア</sup>命<sup>ノチ</sup>此<sup>ココ</sup>地<sup>チ</sup>とてうや。いひ佛<sup>ブツ</sup>羅<sup>ラ</sup>祖<sup>ソ</sup>家<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>之<sup>シ</sup>麻<sup>マ</sup>より  
むとてうもあよりなま。因<sup>イン</sup>をいひ月<sup>ツキ</sup>とせは。死<sup>シ</sup>をいひ徳<sup>トク</sup>を  
かして志<sup>シ</sup>づくを生涯<sup>シヤウヤ</sup>の計<sup>ケイ</sup>とてふ。終<sup>シュウ</sup>は。流<sup>リウ</sup>は。世<sup>セ</sup>能<sup>ネ</sup>  
世<sup>セ</sup>切<sup>キ</sup>りて。い<sup>い</sup>一<sup>い</sup>筋<sup>しん</sup>よつらぐ。楽<sup>ラク</sup>天<sup>テン</sup>は。心<sup>シン</sup>腕<sup>ウデ</sup>の神<sup>カミ</sup>とやあは。  
老<sup>ロウ</sup>社<sup>シャ</sup>の神<sup>カミ</sup>より。賢<sup>ケン</sup>愚<sup>ウ</sup>又<sup>マタ</sup>智<sup>チ</sup>のい<sup>い</sup>し。か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>も。つ<sup>つ</sup>づ<sup>づ</sup>く<sup>く</sup>  
初<sup>ハジメ</sup>乃<sup>ノ</sup>極<sup>キョク</sup>さう<sup>そう</sup>もや。とお<sup>とお</sup>い<sup>い</sup>極<sup>キョク</sup>て<sup>て</sup>極<sup>キョク</sup>ぬ。  
先<sup>マ</sup>の<sup>の</sup>心<sup>シン</sup>推<sup>ツイ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>反<sup>ハン</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ま

十八樓記

芭蕉翁

のみ<sup>のみ</sup>の<sup>の</sup>心<sup>シン</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>川<sup>カハ</sup>よ<sup>よ</sup>お<sup>お</sup>を<sup>を</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>梯<sup>ハシ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
糸<sup>イト</sup>とい<sup>い</sup>ふ。稻<sup>イネ</sup>葉<sup>エハ</sup>山<sup>ヤマ</sup>流<sup>リウ</sup>よ<sup>よ</sup>さ<sup>さ</sup>く。私<sup>シ</sup>心<sup>シン</sup>は<sup>は</sup>た<sup>た</sup>た<sup>た</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>く。  
ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>遠<sup>エン</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>を。田<sup>タ</sup>中<sup>チュウ</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>秋<sup>アキ</sup>乃<sup>ノ</sup>一<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>終<sup>シュウ</sup>て  
春<sup>ハル</sup>よ<sup>よ</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>氏<sup>ウヂ</sup>家<sup>カ</sup>行<sup>ユク</sup>乃<sup>ノ</sup>か<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ど<sup>ど</sup>わ<sup>わ</sup>も<sup>も</sup>源<sup>ゲン</sup>一<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>。曝<sup>ハク</sup>布<sup>フ</sup>  
お<sup>お</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>引<sup>ヒ</sup>を<sup>を</sup>て。右<sup>ミドリ</sup>は<sup>は</sup>流<sup>リウ</sup>し<sup>し</sup>船<sup>フネ</sup>流<sup>リウ</sup>よ<sup>よ</sup>。里<sup>リ</sup>人<sup>ヒト</sup>釣<sup>ツリ</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>く。  
漁<sup>イサ</sup>村<sup>ムラ</sup>釣<sup>ツリ</sup>を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>へ<sup>へ</sup>て。細<sup>ホソ</sup>を<sup>を</sup>ひ<sup>ひ</sup>よ。釣<sup>ツリ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>。ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>く  
も。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>梯<sup>ハシ</sup>を<sup>を</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ヒト</sup>細<sup>ホソ</sup>く<sup>く</sup>り。書<sup>カキ</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>其<sup>シ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>日<sup>ヒ</sup>も<sup>も</sup>立<sup>タ</sup>る<sup>る</sup>  
む<sup>む</sup>り<sup>り</sup>入<sup>イ</sup>日<sup>ヒ</sup>乃<sup>ノ</sup>糸<sup>イト</sup>も<sup>も</sup>月<sup>ツキ</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>く。波<sup>ナミ</sup>よ<sup>よ</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>く。  
大<sup>オホ</sup>乃<sup>ノ</sup>糸<sup>イト</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>く。こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>様<sup>サマ</sup>乃<sup>ノ</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>小<sup>コ</sup>橋<sup>ハシ</sup>細<sup>ホソ</sup>丁<sup>テイ</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>と<sup>と</sup>海<sup>ウミ</sup>



心あるさうに葉山雲といふ。晴もあざと。言も新して眺ら  
まはらなかり。流水の清く。はるかにふりよのそくすま。おん  
伊吹の雲。はるかに止る。瞬とさう。西も乃りり。お  
かまあり。所はたまたの河あり。大止乃り。おとつらとかな  
秋と雲て。秋とさう。是も冬を。秋の雲。おとつらとかな  
と君を。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
り。嵐といふ人。一花も。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
か。月と。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
とかな。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
との。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
乃。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。

去。又画は。僻す。る。二十。条。子。瞻。芝。瑞。と。何。と。揚  
子。梅。道。人。が。骨。體。を。何。て。書。神。乃。る。秋。と。さう。秋とさう。  
秋。と。一。株。の。風。推。を。秋。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
か。心。頭。乃。も。の。ひ。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
画。と。一。株。の。風。推。を。秋。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
為。よ。又。画。を。秋。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。  
何。と。さう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。秋とさう。

空を樹林下へ漏れ

~~~~~



琵琶亭記

〇ひりし嘉祥の辰。貞敏といふ人。この面の琵琶を唐土より  
 傳へて。其代りて能くもつて居る。樂器はほゞこのへんじ  
 あると大なるるや。終又々田舎にたゞ居ては。おひき守  
 りておぼへ。或は右揃一面ありて。紙も皮もあらず。人なし。  
 鳴乃の屋敷も。檜葺りて。とゞまがく。園乃の亭也。藤  
 せも。を種は。は。い。は。桂。六。四。乃。鳴。く。を。そ。と。い。ふ。  
 へき。ま。づ。ら。い。も。なく。何。系。が。夜。乃。そ。く。お。も。い。づ。ら。な。り。  
 へり。檜。面。六。か。く。満。の。松。と。急。ぐ。は。夜。乃。の。檜。乃。在。  
 指。を。振。き。と。く。も。二。乃。月。を。と。り。は。入。方。の。な。る。後。を。傳。

雨乃細きいと。ゆと。終。平。は。祢。ち。あ。を。花。さ。さ。ふ。山。虎。は。  
 ち。お。り。と。彼。を。り。み。勢。留。浪。乃。夕。々。彼。も。秋。は。あ。り。と。  
 と。か。り。心。あ。ま。て。々。強。し。ま。ま。て。は。お。さ。せ。何。倦。時。を。は。は。後。  
 川。よ。是。と。ち。う。け。賦。の。時。々。正。伊。吹。の。松。と。さ。う。と。い。う。新。  
 乃。あ。り。し。八。誰。を。板。原。氏。さ。げ。り。さ。り。と。り。と。彼。を。狂。也。也。  
 と。名。け。い。じ。伯。牙。の。鐘。子。期。か。耳。な。り。て。さ。さ。  
 益。なり。と。彼。と。ま。ま。く。い。ふ。也。お。老。井。の。海。重。い。か。を。  
 合。せ。は。よ。ま。う。せ。て。記。も。同。く。完。子。執。乃。勢。谷。大。の。樂。つ。ま。な。  
 る。を。こ。ら。ま。し。る。ま。づ。い。



風甚水甚記

許六

西梅庵の菊よ風甚水甚と染く。風々涼をともおら  
 月と寄まらぬんかぐべ。ちの風あをくろく吹く。あ  
 愁しうりて。梅の影を浸し。梅の嵐をよき信てハ池  
 おれて新葉お染そつたわ。まゝ人律脚風一寄し  
 遊べ。酔客もや酔て月をと心。悪く業羅をこけま  
 さればやうして各利の影。まきもぢ。昔よ風抱の悲生。  
 けいれよおほひのく。風水の二を海よるる業。まきもぢ  
 酒よあわ。上よゆら風甚をよぬれ。あくくくやし下  
 響ハ水音を。腹とぬくくく。風とまじをいさく。

見らよ。抱中。双角の強。まきもぢ。源よ小陸の我。ハ  
 せり。ぎ。祝。酒のこ。古。り。ら。ま。是。ま。ら。め。記。て。し。る。本。ハ。記。

く。録。好。ま。梅。こ。祝。冷。お。り。り。て。又。よ。新。ハ。梅。ハ。後。よ  
 相。引。よ。引。退。き。と。ま。人。相。公。乃。叔。と。か。り。く。礼。を。ま。ま。下  
 下。ハ。概。換。と。化。し。て。後。と。極。て。業。ハ。ひ。の。ま。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○紀行類

五老井 許六撰

鹿嶋紀行

芭蕉

し流る貞堂。流る浦の月見は初と。松がや。月を  
之み松中細えといひまじ。相まのむしとたひ  
しよまきし。小い秋麻嶋山乃月見むと。おのい立ち  
ありはなよ人ふまよ。いよわい浪客乃と。むらむらい水  
おぼゆるわかしもの下くなる曇のちよと衣おぼを  
えらよちかき。出山おぼを。厨子よあか火入く。尚中  
よせらよ。相杖成なり。く。無門乃園もさる。かこ  
おめつらよ。独あ。一と出ぬ。今いよわい。俵よあらむ。

俗にもあるも。高麗乃石。名をかりぬ。高麗なるは。俗にも流つて。ぬ。唐にて。門も。和は。案て。新。海。と。い。ふ。所。す。ま。海。船。を。あ。げ。新。馬。の。う。も。の。う。も。細。腫。乃。ち。う。も。を。免。こ。じ。と。あ。け。い。も。ぞ。け。甲。斐。ま。よ。め。ある。人。の。は。さ。せ。ま。る。橋。子。見。け。く。ま。る。ま。を。を。け。け。く。い。や。お。ま。さ。く。く。や。ん。こ。い。り。り。里。を。す。れ。れ。が。ま。ま。づ。い。の。家。こ。い。り。づ。ら。ま。甲。斐。ある。秦。旬。乃。一。千。里。と。い。や。目。も。ら。ら。た。ん。た。ん。い。さ。さ。い。は。く。ん。い。い。ふ。よ。こ。る。く。二。事。な。ら。び。き。て。る。が。の。唐。土。の。双。剣。乃。等。あ。わ。と。す。う。へ。一。片。心。乃。一。隅。な。め。を。ま。を。ち。い。ん。先。び。う。さ。れ。乃。つ。く。ん。れ。と。い。我。門。人。風。を。け。り。な。る。す。べ。く。い。い。ち。ち。田。中。義。孝。乃。え。来。と。は。ま。ら。く。い。

連。計。も。ら。え。入。乃。ぞ。う。び。先。も。名。づ。け。せ。り。和。あ。な。く。く。あ。い。く。う。も。白。な。く。く。色。べ。く。う。も。洋。を。あ。し。す。い。ふ。心。乃。安。な。と。ま。り。一。新。を。綿。を。地。よ。と。ま。き。し。ん。や。う。と。え。為。伸。ぶ。ち。提。は。折。入。く。於。の。ち。提。は。提。を。ま。ら。ら。も。風。流。や。か。う。と。ま。ち。か。う。を。ま。ら。ら。一。か。う。や。尾。む。こ。の。被。合。て。小。男。康。乃。つ。ま。あ。い。考。り。の。と。あ。り。新。な。り。聖。の。的。亦。地。が。か。い。む。被。あ。り。又。あ。り。新。也。目。す。ん。も。ま。を。か。く。の。福。よ。利。根。川。乃。か。ら。ら。ぬ。ま。と。い。ふ。所。は。け。く。げ。川。よ。り。新。の。細。代。と。い。ふ。所。を。ま。ら。ら。え。氏。江。の。市。よ。ひ。ま。ら。共。あ。り。者。乃。目。し。その。漁。家。よ。入。く。や。ま。ら。ら。の。新。宿。野。月。々。満。ち。く。睡。ま。る。ま。ら。ら。の。新。宿。野。一。つ。て。康。乃。よ。



諸遠一と枝の派とがくたう。首よりけころる取陀縁、  
亦らてれ新果一を記布り出乃心中。道つもせとやと  
見まへん志神を聖なりやわ。男も是より。角又やいせ  
乃中何の法や先やと打つ神。やん去山の派はく。ま  
ふらま小流呂形内室より何をいひ。聖名神の役、  
をを初、あゝ湯と清氣流也より、湯中あのみ持を定め。  
程見くのみと。毫も記さじ。と神も湯中あよつまて世を  
べーとく。書記も湯中あよと男もはな一ぬ。

例まばはせれ口湯中あ男ぬ。と起て初へき西へ  
く一活例の一獲をくと動を神が。解をも流とく約書  
せり。天氣もた初め入を。あひとつと。あつと。並本新本

陰まへに共く。を道人のまき内。を海へ。とく。とわ  
注麻山神じとて。聖なるは。男も。

天井テニシヤウは首コははくく。ひさくら。り。聖

伊勢と馬士の注麻や花四等。男

十と坂心あひく。と。氣あの中。小坂乃。心も程りく  
あつと。と。わ。

等も竹花ど。あり。也。新。あ。り。也。

引等と。と。園の地。花。く。つ。つ。なり。茶。店。と。ま。と。こ。り。  
サ。キ。と。あ。ひ。と。つ。つ。と。勝。を。う。け。と。わ。

田イノもやあよのく。はよ。ちく。ち。く。権。男

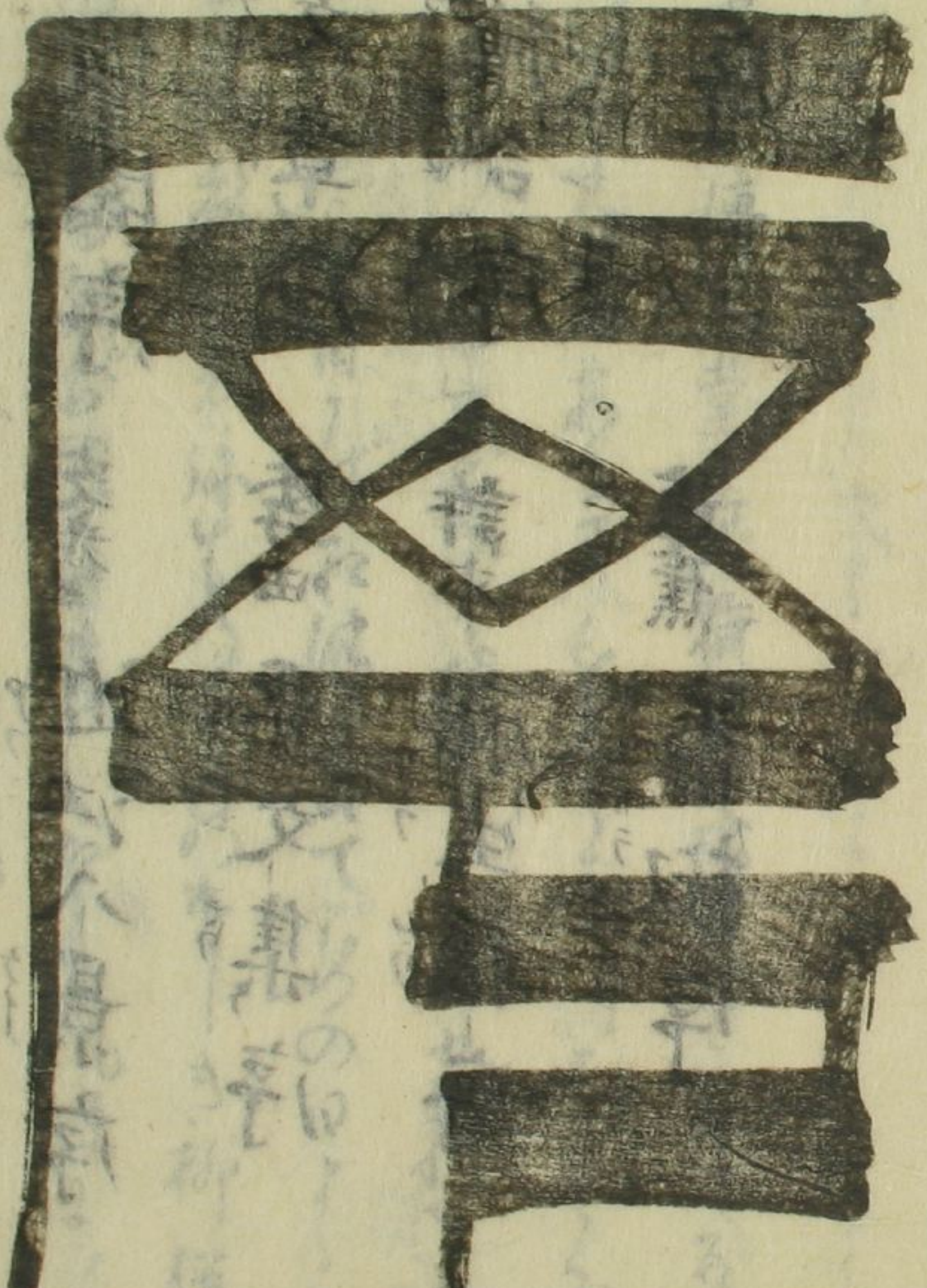
た。と。神。と。と。り。お。は。は。よ。ま。る。ぶ。宿。新。業。也。も。お。は。は。い。り。は。し。





Faint handwritten text in a cursive style, likely a letter or a short treatise, spanning the width of the page.

野野屋



世

野野屋

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference.



曠野集序

芭蕉 猿蓑序

其角

真柙後園序

支考 近江八景序

千那

四絶文章序

李由 要文集序

許六

画樓繪合序

許六 麻生後序

許六

銀河序

芭蕉 番椒序

野坡

序類

曠野集序

五老井 許六

芭蕉

一、曠野集序。恒本堂主人荷子集を編てるを、あつて  
○いふ。何ゆへいふ名あるを、とて、さうさういふ  
○いふ。此集、芭蕉の、むかし、なまじり、乃、虫控とあつて  
○を、乃、月、いふ。さう、目、げ、お、は、お、お、て、乃、の、日、い、せ、い、お、  
○やうと。む、お、や、衣、更、志、海、と、乃、さ、お、を、い、き、柳、屋、の、湯、と  
○あつ、と、い、し、條、多、く、お、の、が、さ、ま、い、か、る、凡、さ、う、い、て、柳、  
○實、と、い、こ、が、い、との、い、ら、は、い、や、糸、柙、乃、い、い、ん、さ、ん  
○乃、い、あ、ら、う、か、い、い、ふ、さ、う、い、て、堀、中、乃、乃、い、あ、い、つ、い、



葛柳の園序

支考

世にあり人ありて。後雅錦律よまきのふ時を。樂つまに  
 存まじき。じものほし。心梅樹下よありふと。ほこりし  
 心。世に。やむも。おきぬ。いぬ。乃。さ。い  
 あり。も。おと。ん。夫。遊。お。も。と。じ。人。も。い。い。ん  
 さ。林。ば。柳。の。中。ま。の。何。し。い。西。乃。友。を。あ。り。て。は。さ。ぶ  
 る。白。あ。も。額。の。雨。乃。一。事。を。疑。て。志。け。の。な。し。及。時。を  
 候。な。し。や。や。も。河。を。さ。ら。ふ。海。よ。ま。て。う。お。何。の。心。よ  
 ほ。ひ。け。た。大。水。の。刺。る。皆。ん。や。は。つ。こ。む。い。日。も。お。も。持。も  
 け。中。よ。あ。さ。び。く。今。酒。の。ま。じ。と。借。り。き。る。に。ん。し

おを。と。失。に。小。事。情。を。い。ふ。今。さ。つ。罰。の。金。谷。の。酒。は。か  
 つ。む。能。後。よ。あ。り。入。事。何。何。と。い。ふ。わ。と。り。よ。お。お。と。て  
 今。と。先。と。せ。し。と。と。さ。い。お。就。ま。ん。

近江八景序

千那

近江の系々。遊ありの絶景とあつじ。び。び。白。雲。田。さ。わ。の。井  
 流。心。よ。は。ら。う。か。る。い。ま。ま。は。は。事。詩。を。ん。流。し。熱。回。文。符。と  
 合。と。謙。湘。乃。八。景。よ。な。り。と。い。ふ。八。乃。五。を。ま。さ。む。う。お。く。と  
 小。深。才。女。仲。の。娘。の。月。よ。刺。し。て。近。傍。乃。政。家。云。石  
 心。ま。よ。あ。さ。づ。つ。時。い。ん。て。い。系。を。流。と。す。く。家。お  
 小。の。八。景。乃。寺。龍。心。お。十。境。歌。を。流。と。い。ふ。う。り。し。



駿りよ君づきて。まゝお之乃翁よ。やろ。オ六の中よ。ある  
まつ。内よかりき。愛するよ。わて。法名そくと。いんご。法六  
と改名して。やぐら。そぬ。妻子よ。く。か。い。い。い。い。  
け世の業ハ。是北なり。せ。火。て。来世よ。ま。は。は。は。内。は。善。意。を  
そ。は。ま。と。ふ。と。い。は。は。ひ。ら。は。ぬ。さ。て。は。法。々。々。出。乃。き。く  
い。は。あ。ら。む。今。六。の。苗。由。多。法。ハ。是。北。なり。え。終。は。法。々  
か。り。て。法。々。々。今。六。の。法。絶。も。く。終。で。て。と。お。の。く  
二。法。を。感。して。説。賊。銘。賛。乃。四。文。を。書。し。て。終。し  
て。老。志。よ。と。い。ひ。其。中。の。終。の。一。章。を。く。ん。ん。お。ま。う。く  
ま。み。絶。と。さ。し。ん。ん。ん。ん。と。い。く。や。く。四。文。章。乃。終。は。病。し  
て。い。ん。ご。の。ご。く。に。罪。を。お。か。す。の。の。の。

要文集序

許六

つね坂の乃叔よ。るる。や。終。ども。法。善。絶。くと。終。一。院。の  
ま。ま。り。終。絶。乃。終。乃。終。き。く。と。い。ひ。も。い。は。る。百。あ。る。さ。り  
く。ま。の。り。夢。の。お。よ。び。わ。く。る。も。も。も。も。う。り。あ。ま。ま。  
か。ま。り。と。い。は。る。一。章。の。あ。い。と。回。し。や。終。乃。飽。む。  
や。あ。り。ま。ま。の。さ。と。い。は。は。法。も。終。乃。終。乃。あ。い。ち。  
ら。ら。が。物。ま。り。ら。ら。終。乃。ま。ま。か。り。ま。れ。を。終。乃。ま。  
ま。も。回。し。や。ま。ら。終。乃。ま。ま。イ。や。ツ。ら。あ。く。一。可。い。し。ら  
か。ら。り。や。あ。る。と。い。は。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。  
終。乃。と。い。は。る。人。の。い。ま。ら。と。い。は。る。美。加。を。終。乃。い。い。い。い。い。



其富内内事。一日の事也。又公私のいふ事をおんみ。  
花の所。此は戯也。乃日。事よ。さる。方。一。又。  
思く日にくれ。一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。

一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。  
一。事。也。乃日。事。の。日。あ。り。く。思。く。日。

麻生子序

序六

麻生乃名と。烏帽子折りともいふ。好まぬ烏帽子  
とて心づいての親をいへ。下へて世を好むは乃  
より遠くかく。天比恵乃そとむともなる。好むは  
妹といふ人此乃好。ありいふむらうともなり。起つて  
は東の原の若の明のやをぬふ。信成の勢  
最まは妙の想乃文書い。さうへへ。桃と  
いふ。桃はまきさうわ。若を思ふ弱とすくれ。是ハ  
若をとおのほはよなへ。晋子の傾城。阿山人が  
世女。お夕山にて。右後方の折乃。この字おほは

未摘も乃。さうへ。同じ。さうわ。カキクテ。さうへ  
うらふ人。さうへ。さうへ。乃。さうへ。好まぬ烏帽子の。あふ  
ふを。さうへ。さうへ。被。控者の。記。ま。し。折。は。園。の  
人。さうへ。折。乃。さうへ。さうへ。ま。し。折。は。園。の  
能。者。大。赤。土。鼓。も。

銀河序

芭蕉

不徳なまの行。勝。て。越。は。ま。本。や。流。し。い。所。は。河。内。  
彼。作。河。内。は。是。海。の。西。十。八。里。遠。は。さ。た。め。て。東。海。に  
十。八。里。よ。う。お。わ。ぬ。ま。さ。な。み。林。の。深。難。谷。折。隅。く  
ま。さ。は。が。よ。ふ。ふ。は。む。ら。あ。さ。や。ふ。ん。く。い。ふ。は。



ひはば 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
も 限らたれ 目をな 湯とて 作る 体。大 衆朝 歌おとく  
ひ。湯 流を 湯とて 作る 体。大 衆朝 歌おとく  
あつも ぬく 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
の 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
月 不の 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
歌 ぬく 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
まじりし おきつる 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
の 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
ゆくと 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あつ 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ

番 椒 序

野 坡

し ぞう かり しの 名を 南 聖が かりし ころと ころと 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あつ 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
ハ たり ぬく 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
い ぬく 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
乃 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あまの 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
ころと 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
ぬく 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あまの 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あまの 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ  
あまの 湯をいふ 縁をひく ぬく。あまのくせお 宮とされ

さらひ。い。海あり。おもひ。海大く。こがづ。笑つ。と。笑乃。益  
 腐。か。う。つ。も。て。貧。乏。格。の。口。味。う。ら。み。さ。な。れ。と。な。り。  
 不。食。甘。多。を。好。む。不。漏。れ。も。さ。れ。た。お。ほ。く。ハ。奴。僕。豆。腐。の  
 味。お。な。の。と。を。又。ひ。ら。と。さ。も。乃。最。と。し。さ。ら。か。く。い。く  
 じ。あ。る。く。小。中。道。の。ゆ。は。よ。た。の。意。お。小。言。よ。こ。い。よ。い  
 ぬ。ら。れ。た。海。の。味。と。い。ひ。み。の。り。し。味。と。さ。る。き。一。の  
 あ。こ。と。り。た。心。や。た。ら。ら。ふ。よ。も。あ。ら。な。志。し。今。ハ  
 人。の。心。を。世。と。な。ら。せ。た。い。は。い。と。い。は。い。と。な。れ。じ。べ。く。  
 心。か。ら。も。同。と。な。ら。せ。た。い。は。い。と。い。は。い。と。な。れ。じ。べ。く。

石。其。を。焼。く。一。杯。を。お。さ。す。

